

栃木県農業関係高等学校行動計画（第3次アクションプラン）中間検証

学校名	栃木県立鹿沼南高等学校
-----	-------------

- 自己評価
- A 計画通り推進し、成果が上がっている。
 - B おおむね、成果が上がっている。
 - C 計画通りに推進できず、成果が不十分である。

10の行動計画	推進計画	自己評価
1 「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います。	生徒が目的意識を持って資格取得等に取り組み、達成感を感じるとともに、進路実現につながるために、アグリマイスター顕彰制度に積極的に取り組ませます。	B
<p>●これまでの取り組みのまとめと反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アグリマイスター顕彰制度を活用した専門教育の取り組みとして、平成29年度～令和2年度にシルバー認証者5名（食料生産科2名、環境緑地科3名）であった。さらに専門の資格取得者を増やし、アグリマイスター顕彰制度に積極的に取り組ませたい。 		
2 「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います。	国際感覚を身に付けた視野の広い人材を育成するために、「さつき」のEU輸出に向けた取り組みや国際水準GAPに関する学習を行います。	A
<p>●これまでの取り組み状況のまとめと反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サツキツツジの輸出を通じたグローバル教育の実践ができた。今後も地域のネットワークを強化し継続していきたい（環境緑地科） ・GAPに関する学習に取り組んだ。今後は県GAPの認証を目指したい。（食料生産科） 		
3 「地域農業の生産を支える」教育を行います。	高い技術と経営感覚を備えた地域の農業を担う人材を育成するために、伝統野菜の原種種子の提供、栽培技術の研究や優良なとちぎ和牛の育成・生産の学習を実践します。	A
<p>●これまでの取り組み状況のまとめと反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産学官連携による伝統野菜「鹿沼菜」の生産拡大のため、種取りや普及活動の取り組み、成果がみられた。今後は鹿沼菜に変わる新たな農産物の取り組みを考えていきたい。（食料生産科） ・第4回和牛甲子園の枝肉評価部門において、本校で出産した和牛が優秀賞に入ることができた。今後も優良な和牛の育成や生産を実践していきたい。 		
4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する」教育を行います。	地域産業の活性化に貢献するために、「板荷茶」の普及に向け地元企業と連携した菓子の製造、販売や鹿沼の特産品を利用した新しい製品の開発を行います。	B
<p>●これまでの取り組み状況のまとめと反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・板荷茶の知名度アップを目指し地元の企業と連携した菓子の製造を行い、地域のイベントなどで研究内容を発表した。今後は地元の菓子製造の企業と協働で商品化を目指したい。（食料生産科） 		
5 「地球環境を守り創造する」教育を行います。	環境の保全や創造についての意識向上と実践力を身につけるために、環境保全型の農業や適切な森林管理等についての学習を推進します。	A
<p>●これまでの取り組み状況のまとめと反省</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な農業の実践として地域の農家に本校の堆肥の有効活用を提案し、地域と農畜の繋がりができた。今後も地域と連携しながら持続可能な農業に取り組んでいきたい。（食料生産科） ・学校林の除草刈りや生態調査の実習や観察学習を行うことができた。また、学校林の原木を活用したきのこ栽培や木炭の製造実習にも取り組むことができた。今後も学校林を有効に活用して学習の効果を高めたい。 		

10の行動計画	推進計画	自己評価
6 「食農」教育を推進します。	食や農業の大切さを理解させるために、農産物の販売会を定期的開催するなど、食料の生産から加工・消費までの一貫した学習を実践します。	A
<p>●これまでの取り組み状況の検証と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわくマルシェを通して地域に農産物の販売実習を開催することができた。しかし、令和2年度は新型コロナウイルスの感染症予防のため、実施できなかった。今後は対策を取りながら再開を目指したい（食料生産科） ・地域特産物「そば」の普及を目指し、地域の支援を得てそば打ち甲子園に出場することができた。そばを通じた食育活動を継続していきたい。（食料生産科） 		
7 「地域資源を活用する」教育を行います。	地域資源の新たな活用法を見いだす発想力や企画力を身につけさせるために、鹿沼土や間伐材の活用についての研究や商品開発に取り組みます。	A
<p>●これまでの取り組み状況の検証と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トマトの栽培実習から手に付いたトマトタールの汚れを地域資源である鹿沼土を活用し、洗浄剤の研究に取り組み、各種コンクールで成果を得られた。今後は地域の企業と連携し、洗浄剤の商品化に向けて取り組んでいきたい。（食料生産科） ・黄色いサツキツツジの品種改良を研究機関と連携して研究に取り組んだ。数年後に研究成果が発表できるようにまとめて行きたい。（環境緑地科） 		
8 「地域交流の拠点となる」教育を行います。	地域交流の拠点となることを目指して、農産物の販売やボランティア交流などの取り組みを推進します。	B
<p>●これまでの取り組み状況の検証と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントに参加し、実習で栽培した農産物販売の販売実習を行った。今年度は加蘇地区におけるグリーンツーリズム運営ボランティアに参加予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防拡大防止のため、実施できなかった。今後の活動を引き続き検討したい。（食料生産科、環境緑地科） 		
9 「各種農業関係機関・団体と連携した」教育を行います。	農業後継者・農業関連企業への就業者育成をするために、学校と地域自治体や農林業団体で構成する「上都賀地区農林業教育連絡協議会」及び地元の企業や大学との連携を強化し、就農教育や研究活動の充実を図ります。	A
<p>●これまでの取り組み状況の検証と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上都賀地区農林業教育連絡協議会の支援を受け、各部門の学習研修会や発表会などを行うことにより、生徒の進路実現に生かすことができた。今後は農家や地元企業や農家などとのインターンシップの取り組みをさらに充実させることにより、就農や農業関連企業へ進む生徒を育てたい。（食料生産科、環境緑地科） 		
10 「地域防災を推進する」教育を行います。	地域防災の意識を向上させるために、自然災害が及ぼす農業への影響と防災・減災対策についての学習を行います。	B
<p>●これまでの取り組み状況の検証と今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コナラなどの苗木を東日本大震災の被災地へ配布する活動を実施することができた。今後も苗木の配布に変わる活動を考え、生徒の防災意識を高めたい。（環境緑地科） 		